

茨大生×東北プロジェクト【第2弾】 茨大生と被災地を「繋げる」～「繋がる」へ

(茨大東北ボランティア＊Fleur＊)

分野：ボランティア、地域交流

代表者：人文学部社会科学科 3年 鬼澤 麻美

連携先

石塚サントラベル株式会社

顧問教員

伊藤哲司（人文学部社会科学科・教授）

参加者

井上翔太（人文学部社会科学科 3年）
大川日和（教育学部養護教諭養成課程 3年）
大村みるほ（教育学部情報文化課程 3年）
鬼澤麻美（人文学部社会科学科 3年）
河合舞果（人文学部社会科学科 3年）
川崎夏海（教育学部養護教諭養成課程 3年）
小嶋悠祐（教育学部情報文化課程 3年）
佐々木侑太（人文学部社会科学科 3年）
塩手菜々美（人文学部人文コミュニケーション
学科 3年）
塩畑見咲（人文学部社会科学科 3年）
鈴木真由（人文学部社会科学科 3年）
高橋絵梨子（人文学部社会科学科 3年）
吉田翔（人文学部社会科学科 3年）
久保田大貴（工学部メディア通信工学科 2年）
佐藤綺音（人文学部社会科学科法律経済学科 2年）
中橋彩乃（人文学部社会科学科法律経済学科 2年）
中三川瑞樹（人文学部社会科学科人間文化学科 2年）
根本知沙（教育学部学校教育教員養成課程 2年）
町田天斗（農学部食生命科学科 2年）
三宅彩（人文学部社会科学科法律経済学科 2年）
吉田彩乃（人文学部社会科学科法律経済学科 2年）
赤澤恵那（人文学部社会科学科法律経済学科 1年）

荒井天雄（人文学部社会科学科法律経済学科 1年）
栗村穂乃果（人文学部社会科学科法律経済学科 1年）
遠藤航（人文学部社会科学科法律経済学科 1年）
小倉勇輝（人文学部社会科学科法律経済学科 1年）
大森開（人文学部社会科学科法律経済学科 1年）
具志堅光（人文学部社会科学科法律経済学科 1年）
栗田咲希（人文学部社会科学科現代社会学科 1年）
小池さくら（人文学部社会科学科人間文化学科 1年）
坂井映里奈（理学部理学科 1年）
服部帆高（人文学部社会科学科法律経済学科 1年）
日賀野頼巴（理学部理学科 1年）
藤根大己（工学部機械システム工学科 1年）
松原日向子（人文学部社会科学科法律経済学科 1年）
宮本優里（人文学部社会科学科法律経済学科 1年）
森田彩未（人文学部社会科学科法律経済学科 1年）
渡邊千尋（人文学部社会科学科法律経済学 1年）

プロジェクトの概要

● 背景

当プロジェクトの母体であるサークル「茨大東北ボランティア＊Fleur＊」は東日本大震災の翌年以降、活動を継続してきた。

時間の経過とともに、あの日の出来事への関心は薄れていると感じる。過去を変えることはできないが、そこから学んでこの先の未来を変えることはできると考える。

災害に対する当事者意識を向上させることを目的として、震災当時のことを改めて考える機会をつくることを目指した。

● 活動内容

当プロジェクトは、宮城ボランティアバス、展示会、講演会の3つに大別される。

■ 宮城ボランティアバス 2018

- ・開催日時：2018年12月9日
- ・活動場所：宮城県

10月初頭、運営担当の班が結成され、10月後半には応募フォーム、クルーズの予約を済ませた。10月末にはバスを運行していただく石塚サントラベル(株)の綿引社長と打合せを行った。11月には茨城学や授業内での宣伝や構内でのビラ配りを行った。また、申込者への案内やしおり等の資料作成を分担して完了させた。



宣伝ポスター

当日朝4時に茨城大学前に参加者が集合して石塚サントラベル(株)に運行して頂くバスに乗り、4時25分に出発した。8時から、東日本大震災について理解を深めるため、車内で東日本大震災の概要や旧大川小学校に関する内容のDVDを再生し、バスガイド(Fleurメンバー)は大川小学校の概要を説明した。当日添乗してくださった綿引社長から、ボランティアバスの活動の歴史や大川小学校に関するお話もしていただいた。

9時に旧大川小学校に到着し、景観を整備するため、花壇の手入れや校舎の清掃を行った。活動の途中で、遺族会の方々から震災当時のお話や大川小学校の震災前後の様子について教えていただ

いた。遺族会の方々に当時の避難経路や避難経路となりうる場所であった山を案内していただき、実際に避難経路を歩きながら説明を聞いた。

その後上品の郷で休憩をはさみ、観光として松島で自由行動の時間を取った。14時から松島語り部クルーズに参加した。参加者は船上から松島の景色を楽しみ、震災当時から現在までの松島について、語り部の方の話聞き学習した。

15時過ぎには松島を出発し、1度休憩をはさんだのち19時に茨城大学に到着した。



景観整備の様子

■ 展示会

- ・準備期間：2019年1月7日～15日
 - ・展示期間：2019年1月16日～27日
 - ・展示場所：茨城大学図書館1階の展示室
- 展示会は「Fleurの紹介」「被災地の現状」「体験コーナー」のブースに分かれている。

「Fleurの紹介」では、団体の概要やこれまでの活動についてまとめたポスターを展示した。活動紹介では、生の声を知っていただこうと、活動に参加したFleurメンバーの感想や課題を添えて展示した。

「被災地の現状」では、東日本大震災による被害状況、昨年度と今年度にFleurが訪れた東北三県の現状を、現地で実際に撮影した写真を交えながら紹介した。

「体験コーナー」では、震災当時に開設されていた避難所や使用されていた水タンクを再現したものを実際に使用していただける体験ブース、防災リュックの内容物一覧と実際に手にとって見る

ことができる防災リュックとその内容物の展示をおこなった。また、Fleur では、青い鯉のぼりプロジェクト事務局主催の「青い鯉のぼりプロジェクト」に一昨年から参加している。その活動にとともに、東松島市へ送るメッセージの募集をおこなった。

その他にも、毎年11月に作成しているFleurの活動をまとめた活動誌の展示、昨年度の学生地域参画プロジェクトで作成したパンフレットの配布、次月に行われる予定であった、講演会に関する広報などをおこなった。



Fleur 紹介のブース

■ 講演会

- ・開催日 : 2019年2月10日
- ・開催場所: 茨城大学図書館3階
ライブラリーホール

講師として、震災に関する伝承活動を行う佐藤敏郎氏をお招きした。佐藤氏とは先述の宮城ボランティアバスの際初めてお会いし、1月9日、正式に講師の依頼をした。現在佐藤氏は、“小さな命の意味を考える会”代表、“大川伝承の会”共同代表を務めながらNPOにも所属し、またラジオパーソナリティとしても活動するなど、幅広い分野での活躍を見せる。

当日までの準備として、告知活動においては、学内へのビラ配布(1月22日-25日、2月5・7日)やポスター掲示、講義内での宣伝や社会連携センターや広報室のご協力のもと全学生へのメール斉配信、大学のホームページに掲載させていただいた。学外へはSNSでの呼びかけや近隣の中

学、高校へのポスター配布、さらには石塚セントラベル(株)綿引薫社長のご協力のもと新聞に掲載させていただいた。



講演会のポスター

そして当日は、中・高・大学生、教職員、一般の方といった幅広い層の62名(Fleurメンバーを含めると80名)にご参加いただいた。

当日、メンバーは10時半に集合し、事前に割り振っていた役割で準備を行った。11時には佐藤氏を迎え打ち合わせを開始し、12時半に開場、13時過ぎには開会した。大別すると本講演会は、佐藤氏による東日本大震災当時やこれからの私たちの役割などについての講演、佐藤氏とFleurメンバー3名でそれぞれの活動や被災地を訪れて感じたことなどについて話し合うトークセッション、参加者同士で考えを共有する場としての座談会の3部構成で行われた。



トークセッションの様子

プロジェクトの成果報告

3つの活動の成果として一番大きなものは、茨大生を含む多くの人に興味をもってもらえたことだ。被災地に足を運びボランティアなどの経験を通して感じたこと、展示会・講演会に参加してそ

ここで考え学んだことが、今後のそれぞれの被災地とのかかわりや災害に対する意識を、一歩先へと進めることができた。

ボランティアバスと講演会においては参加者に事後アンケートを実施したため、一部紹介する。

■ ボランティアバスの感想

「防災に興味があり、今回のボランティアで今後の課題に具体性を持つことができた。今までは、防災設備や環境のみに目を向けてきたが、災害が起きたときの人の動きも重要であることに気づかされた。」(工学部 1年)

「東日本大震災は私の記憶に強く残っているもので、被災地に行きたい気持ちがずっとあったため、参加を決めました。実際参加してみて本当に良かったです。大川小学校で亡くなった人々は、ちょっとしたことで助かる命だったこと、そして遺族の方の想いを知りました。災害時、「とにかく逃げること」の大切さを改めて感じました。」(教育学部 1年)

■ 講演会の感想

「同学年やその下の人々に震災の恐ろしさを知らない人たちに知ってもらい、全員が何かが起こったときに動けるようになるために、この話を少しでも広げていければと思います。」(高校生・茨城県出身)

「3.11は過去の出来事だという認識があったが、講演を聞いてあの日を語ることは、まさに未来を語ることでありと考えさせられた。」(大学生・宮城県出身)

「自分の中でも震災意識や思いが薄れてきたところに、また、鮮明に色付けされた思いがあった。今または落ち着きを取り戻して日々の当たり前に幸せを思いもせず生活していたけれど、時に立ち止まり、または奥の方で日常は突然奪われることもあり、命の大切さを生かされている意味を考えていきたい。」(一般・茨城県出身)

■ 講演会のアンケート (回答数：59)

図1：参加者の所属

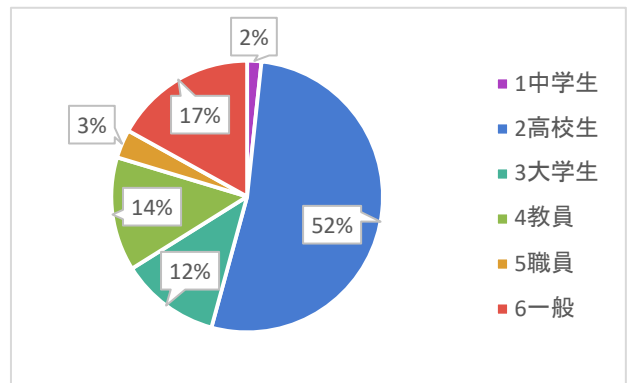


図2：満足度

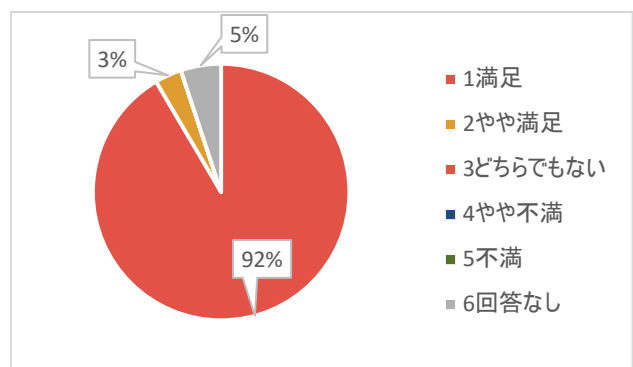
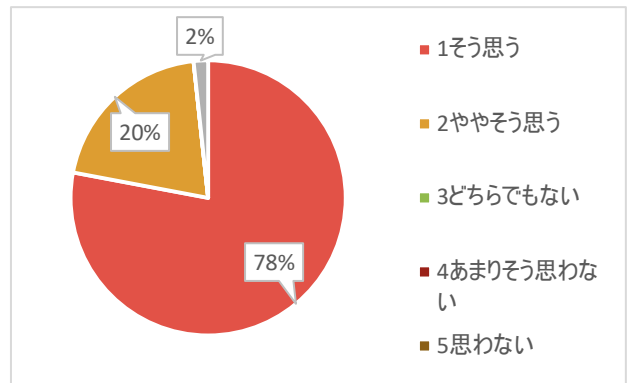


図3：今後、このような講演会に参加したいか



今後の展望

今年度から「1人でも多くの笑顔を守りたい」という新たなモットーを掲げて活動をしている。このモットーの下、「茨大生の防災意識を高める」「復興の手助けをする」ことを目的として、自分たちに出来る活動を継続していきたい。

現地でのボランティア活動だけでなく、活動を通して学んだことや感じたことを共有する機会の創出、防災に関する企画などにも力を入れていく。